

第一回 横須賀・三浦地域懇談会 「企業と地域の連携による キャリア教育・職業能力教育の推進」

平成18年2月9日 横須賀セントラルホテル

第3回 地域別懇談会開催！

地域別懇談会の開催は県央地域、湘南地域に続き3回目の開催となり、地域行政・団体・企業ならびにテーマに即した関係箇所とのネットワークが構築された。

冒頭、横須賀市副市長 上田 順子氏より、企業幹部、教育関係者、住民ら約120名の参加者へご挨拶。「地域、時期に適った素晴らしいテーマであり、横須賀で開催されることは地域の活性化も含め、大変有り難く、成果を期待している。」と歓迎された。



高橋会長 基調講演！！

【基調講演】「日産モノづくり改革と人材育成」
日産自動車（株）取締役副社長
（社）神奈川県経営者協会会長 高橋 忠生氏

日産の復活に至る「マネジメント改革」「ものづくり改革」「今後の課題と人材」を中心にお話いただいた。

～マネジメント改革～

かつての日産の文化には部門間や上下間の意思疎通の障壁が厚く、それぞれが“たこつぼ”に入っており、全社員共有のビジョンが欠如しているなど数字で表せない問題があった。

改善策として部門横断的な課題発掘チーム・解決の実行部隊チームを新設し、業務運営の仕組みづくりを実施。

併せて上司が“透明性”を持つ事を主張した。報告・連絡・相談の「ホウレンソウ」は部下が上司にするのではなく、より情報を持った上司から部下にするべきであり、これを徹底する事で目的意識や戦術戦略の共有を可能にした。

この時、リーダーとして備えておくべき資質は「出来るか」ではなく「こうしたい」という強い気持ちを持つ事であるとした。

～ものづくり改革～

“同期生産方式”という顧客注文順に作成された生産計画に従い、スタッフ・工場・サプライヤー・運送・納車まで全てを時間通り、順番通りに短い時間で生産をする日産生産方式について紹介し、とにかく良いものをキメ細かく作る“匠”の本質を備えた現場を持てるかどうか、今後のものづくりのカギであるとした。

「今後の課題と人材」では“同期生産方式”を世界各国の工場にも導入し、日本国内の工場を凌ぐ高い生産性を誇る海外工場が相次いで登場する事例を紹介、メキシコを例に「賃金が安く、生産性も低いという時代は終わった」とし、そのなかでも日本は切磋琢磨体制を構築し、改善による技術革新・ノウハウ等を蓄積し日本はトップランナーを背負っていることを認識する必要があるとした。

今後は神奈川が日産の「集中蓄積」の拠点となるとし、本社・工場を始め、研究所・研修施設等を日産のノウハウの集積として紹介戴いた。



【パネルディスカッション】

<コメンテーター兼司会>

東京大学ものづくり経営研究センター

特任助教授

安田 雪 氏

<パネリスト>

（社）神奈川県経営者協会会長 高橋 忠生氏

横須賀商工会議所 副会頭

（三浦藤沢信用金庫 理事長） 小川 善久氏

県立神奈川総合産業高校 校長 宮原 紳 氏

横須賀市立武山中学校 校長 細野 裕 氏

司会の安田特任助教授より、各パネリストへ質問が投げかけられた。

～日産の正社員と派遣・期間工の採用バランスと派遣・期間工の人材育成、技能教育について～

高橋会長は正社員と派遣・期間工に分け隔てなく技能訓練・QCサークル等を行なう一方、

優秀な人材には正社員登用制度を設け、職場全体のモチベーションを上げている現状を報告した。

～ ニート・フリーター問題について ～

小川副会頭は雇用問題は景気とリンクしている事を述べ、自社の経営をきちんとし、利益を出し雇用を創出する事。社員が使命感を持って働くよう教育し、家庭に帰り子供の前で仕事の愚痴を言わない。先生もきちんと職業観を持って生徒に接して欲しい。と希望を述べた。

～ 企業と教育の第一線で働いている方々と生徒との出会いの場を積極的に設けているが ～

宮原校長は企業、大学など約40団体と連携し、外部の教育力を導入することで、子供達に何のために学ぶかを明確にしている。子供たち一人一人が良い人生を送るための能力を身に付けさせる場を提供する事が大事であると独自の自校カリキュラムを説明し、持論を述べた。

～ 職場体験学習（中学校2年生を対象にした5日間インターンシップ）を通じて生徒の反応 ～

細野校長は中学2年生が成長過程で一番大人に不信感を抱いている時。教職員は“教職人”であり、学校だけの教育には限界がある。職業体験を通じて本物の真剣な大人に出会い、要求される厳しさを学ぶ事で、今まで反抗していた親や教師を認めると同時に、将来のビジョンも明確になると成果を報告した。

【意見・質疑応答】

意見：わかもの就職支援センターから日々相談に来る若者を見て、2つお願いしたい。

若者の話を聞いてあげて欲しい。地域・企業・教育の連携により、若者に職業意識を教えて欲しい。

質問：効率的なインターンシップのやり方とは？

高橋会長・小川副会頭共に受け入れる企業がインターンシップの目的そのものを見直し、考える事が重要であるとした。

細野校長は企業側と学校側が苦しみながら一致して子供に対応するべきと主張した。

【まとめ】

司会の安田特任助教授から基本的に若年雇用の問題、ものづくりに関する人材育成の問題意識は共通していた。日産の活動にもあったが、各界現場に点在している課題や努力に橋を架ける事が大事である。神奈川が持っているソーシャルキャピタルは素晴らしい。これを機に連携して欲しいと締め括った。

最後に地域活性化委員長（日産自動車（株）理事横浜工場長 酒井 寿治氏から、「各界の熱意が大変伝わってきた。地域のために、一同が集まれる場を提供する活動を自信を持って続けていきたい」と決意を新たにした。



【交流パーティ】

小川副会頭より「60年ぶりとなる好景気のゴールデンサイクルに雇用を創出しよう」との熱意あるご挨拶に会場が沸いた。約2時間にわたり企業・自治体・住民による約50名の参加者により交流が図られ、連携の一步を踏み出した。

最後に関東化成工業（株）代表取締役副社長 糸賀孝夫氏から地元企業としての役割、連携の重要性を再確認し、会が締め括られた。